

## 令和7年度 地域連携推進会議 議事録

- 1 開催日時 令和7年7月23日(水) 14時00分～16時00分
- 2 開催場所 清流の郷 会議室
- 3 出席者 委員 利用者代表 稲生英一 氏  
委員 利用者家族代表 酒井実 氏  
委員 地域住民代表 清松茂雄 氏  
委員 障害に知見を有する者 池田正裕 氏  
委員 行政関係者(市担当職員) 甲斐一広 氏  
職員 施設長 古田智 ほか6名

### 4 会議

～ 施設長挨拶、参加者自己紹介の後、会議を行った。会議は、別紙次第に沿って施設職員が説明を行った。主な説明内容は以下の通り ～

#### (1) 地域連携推進会議について

厚生労働省が示す「地域連携推進会議の手引き」を引用し説明を行った。なお、手引書別添資料4「地域連携推進員の手引き」については、委員全員に配布した。

～ 以降の説明は、施設が準備した資料(パワーポイント併用)で説明を行った。～

#### (2) 施設の紹介

##### ①施設の概要・沿革

施設の理念と基本方針、法人及び当施設の沿革を説明した後、管内見取図で施設の設備について説明を行った。

##### ②施設の事業内容

現在実施している「生活介護サービス」、「施設入所支援サービス」、「短期入所サービス」、「計画相談支援サービス」、「一般相談事業」について説明を行った。

##### ③利用者の状況

現在の利用者48名の男女構成、年齢別人数、障害支援区分の状況等について説明を行った。

##### ④職員の状況

全職員46名の職種別内訳とそれぞれの業務内容について説明を行った。

#### (3) 利用者の日常生活

日常のサービススケジュールと利用者の普段の過ごし方のほか、特別な行事・イベント、ご家族等との面会、外出、外泊の状況について説明を行った。

#### (4) 施設の運営状況について

##### ①障害福祉サービスの報酬制度

まず、利用者が市町村への障害区分の申請を行い、障害福祉サービスを受け、施設が報酬を受けるまでの流れを説明した。次に、報酬額に関して、生活介護サービスに係る報酬額の基礎となるサービス内容等と各単位、報酬が減額される減算の種類と各減算単位について説明を行った。最後に、本施設利用者1名のひと月の報酬

額とその内訳について説明を行うことで主要な収入である介護報酬制度への理解を求めた。

## ②財務・経営の状況

財務3表のうち「収支計算書」について、過去複数年の状況を説明した。特に、直近の令和6年度決算に関しては収支それぞれの主要な勘定科目と金額の説明を行うとともに決算に基づく主な簡易財務分析指標の説明を行った。

## ③施設を取り巻く状況・課題

施設の利用対象者である身体障害者数の減少、現施設利用者の高齢化、介護人材不足、地域移行や介護保険優先原則といった国の方針等、障害者入所施設を取り巻く厳しい状況を踏まえ、職員に求める姿勢についての考えを説明した。

### (5) 利用者の権利擁護の制度、取組み

まず、施設における職員あるいは第三者による苦情受付制度の整備状況と公的機関による苦情受付制度の説明を行った。引き続き実際に昨年度寄せられた苦情（意見）、職員に寄せられたもの1件、第三者委員に寄せられたもの1件、利用者との意見交換会で寄せられたもの3件の内容と対応について説明を行った。

### (6) 防災対策

B C Pをはじめ現在整備済みの防災計画について、防災訓練や防災研修の取組み状況、行政や各種団体等と締結している防災協定について説明を行った。

### (7) 虐待防止委員会活動報告

委員会の前年度及び本年度（計画）の事業活動の内容について説明を行うとともに、活動の一事例として「成年後見制度」に関する研修について説明を行った。

### (8) 身体拘束適正化委員会活動報告

身体拘束対象者が26名であること、身体拘束の内容、身体拘束の要件、身体拘束に必要な書類、身体拘束に関する職員研修等について説明を行った。

～ 説明の合間に質疑の機会を複数回設ける中で寄せられた意見と答弁は以下の通りであった ～

質問) 単年度の収支がほぼ均衡しているようだが、毎年必ず職員の定期昇給が必要となる中で、もし、収入で賄えない状況になったら補填はどうするのか。

答弁) 利用者や職員の変動により毎年収支の状況は変わるため、場合によっては介護報酬で賄えない状況になることも起こりうる。その際には手持ち現金で補うことになる。ただ、不測の事態が発生し大幅な減収となっても、職員の定期昇給の維持を含め、直ちに施設の運営に支障をきたすような財務・資産の状況ではない。

質問) 身体拘束は、身体拘束適正化委員会で協議、判断して行われるのか。また、緊急に対応する必要が発生した際はどうか。

答弁) お見込みのとおり。委員会は定期的に開催しているが、緊急時には緊急の会議を招集する。

補足) 身体拘束に関しては、保護者への説明を行ったうえで同意を得ている。

～ 会議後、施設の案内と利用者の個室で利用者との面談を行う。見学と面談を踏まえ、委員から以下の感想が寄せられた。 ～

(施設見学の感想)

○地区住民として、避難棟や備蓄品の状況を見学したかったので、大変いい機会になった。

○施設建設から24年が経過しているにもかかわらず施設全体が明るく清潔な印象を受けた。

○においやごみも気にならなかった。

○職員は、しっかりとあいさつをしてくれた。

(利用者との面談の感想)

○施設での生活には満足している印象を受けた。

○面談中は、常に笑顔がみられ困りごと等はないようだ。

○利用者から気になるような話はなかった。今回は互いに初対面であったため遠慮もあったのかもしれない。これから利用者と親しくなることが委員として必要なことだ。



(会議次第)

## 令和7年度 地域連携推進会議

日時：令和7年7月23日（水） 14時00分

場所：障がい者支援施設清流の郷 会議室

### 次 第

- 1 開会
- 2 施設長あいさつ
- 3 出席者の紹介
- 4 議事
  - (1) 地域連携推進会議について
  - (2) 施設の紹介
    - ① 施設の概要・沿革
    - ② 事業の内容
    - ③ 利用者の状況
    - ④ 職員の状況
  - (3) 利用者の日常生活
  - (4) 清流の郷の運営状況
    - ① 障害福祉サービスの報酬制度
    - ② 財務・経営の状況
    - ③ 施設を取り巻く状況・課題
  - (5) 利用者の権利擁護の制度・取組み
  - (6) 防災対策
  - (7) 虐待防止委員会及び身体拘束適正化委員会の活動報告  
－ 別紙 －
  - (8) その他

～ 施設見学・利用者との面談 ～

  - (9) 意見交換
- 5 閉会